

2011(平成23)年度 第3回		開催月日		2011年6月27日(月)						
FD支援プログラム・指定PJ 定例MT議事録		場所・時間		本館3階会議室・16時30分～17時45分						
出席者	△	小西由浩	○	藤波潔	○	平良直之	○	前堂志乃	○	友知政樹
	△	佐藤敬明	○	喜世川悠						
幹事：教学課 玻名城政弘、中山かつら										
議 事	<p>【第1回FD研修会についての所感】 平成23年6月17日(金)開催の第1回FD研修会「シラバスの『在るべき姿』を考える」について、所感も交え、意見交換を行った。詳細は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ事務職員という立場であったので、関心を持って拝聴した。特に、普及・充実させる取組みについて多角的な視点を学べた。 ・ 事例としては、授業評価アンケートとシラバスをリンクさせる取り組みやカリキュラム・マップが印象に残った。 ・ 立命館大学の取り組みの多さに感銘を受けた。事例としては、図書館の蔵書システムのとの連携が印象に残った。 ・ シラバスチェック・カリキュラムチェックを行い、3万あったカリキュラムを半減させた取り組みに驚嘆した。 ・ 非常勤教員に、科目のつながりをいかに意識させるかが、どの大学にもあてはまる課題になるのかと考えた。 ・ シラバスチェック(提出されたシラバスをチェックする取り組み)を、事務職員ではなく教員が担当されているのだが、本学でも取り組まないといけない課題なのかと思った。 ・ 立命館大学には、科目の位置づけが明確に書かれたガイドがあるのだが、本学でもカリキュラムの位置づけを考える取り組みを持たないといけない時期にきているのではないのかと考えた。 									
	<p>【他大学の事例検証】</p> <p>1. 各委員より、他大学のシラバスの事例(他大学の良い例、悪い例)について報告がなされた。</p> <p>1) 調査の観点：本学と同じ教務システムを導入している大学の事例報告 概要 報告：T大学、N大学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じシステムを導入していても、項目や印刷設定等相違が見られる。カスタマイズ等ができるシステムなのも含め、本学が現行のシラバスの設定を行った経緯などを調査し、報告を行う予定である。 <p>2) 調査の観点：本学と同じシステムを導入している大学の事例報告 詳細 報告：K大学について</p> <p>「講義計画」における字数、「学習・教育目標」「受講制限」「関連する科目」など本学にはない項目設定がされている状況の報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (前述の)システム導入の経緯の報告を受けて、項目設定が変更できるシステムということが確認できれば、このPJの取組み・結果がより反映できるのではないか。 <p>3) 「良いシラバス・悪いシラバス」調査の観点：項目 本学のシラバスにはなく、よいと思われた項目を持つシラバスの報告がなされた。</p> <p>R大学：「準備学習」「履修の条件」「当該科目に関連する開設科目」「担当者からの一言」 K1大学：「授業以外の学習方法」「留意事項」 K2大学：「成績評価方法・基準自由記述欄」「準備学習等についての具体的な指示及び他の科目との関連」「更新日時」「連絡方法」</p>									

